

処遇改善や人材 確保の知見共有

助太刀総研が
働き方フォーラム

建設業界向けマッチングプラットフォーム「助太刀」を運営する助太刀（東京都新宿区、我妻陽一社長兼最高経営責任者〈CEO〉）の研究組織である助太刀総合研究所（植村具民所長）は17日、東京都千代田区の国際フォーラムで「建設業働き方フォーラム」を開いた。写真。建設に関連する政産官学の200人超が参加。働く人の処遇改善や人材確保などに関し、知見を共有した。

「業界リーディングカン



パニーにおける人材・協力会社の支援戦略」と題したパネルディスカッションには、鹿島の加藤昌二安全環境部長、竹中工務店の斉藤幸隆調達本部企画管理グループ長、きんでんの内田徹技術本部技術統括部長が登壇した。

鹿島の加藤部長は、重層下請構造の改善に向けた原則2次下請までに限定した施工体制を目指す取り組みを紹介。「担い手確保につながる最適な方法だと考えている」と語った。竹中工務店の斉藤グループ長はマスター制度に触れて、「業界が取り組まなければならぬのは全建設関係者の賃金アップだ」と強調。きんでんの内田部長は「よ

り魅力ある職場になるためには、着工後の変更がない現場の実現だ」と語った。このほかのセッションでは、植村所長や国土交通省の宮沢正知官房参事官（建設人材・資材担当）、建設産業専門団体連合会（建専連）の岩田正吾会長らも参加。建設経済研究所の佐々木基理事長が講評を行った。

懇親会で我妻社長兼CEOは「横のつながりがあまりないゼネコン、電気設備、ハウスメーカーが集う場を作れたことが成果だ。今後とも集っていたく場を作っていく」とあいさつした。

